

平成29年【第1回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施する。

2 調査の概要

(1) 調査対象

岩手県の沿岸12市町村に居住又は就労している方 153名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

(2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

(3) 調査対象時期

平成29年1月(次回調査は平成29年7月予定)

(4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感 (生活の回復度、直近6ヶ月間の進捗状況)

問2 地域経済の回復に対する実感 (地域経済の回復度、直近6ヶ月間の進捗状況)

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(災害に強い安全なまちづくりの達成度、直近6ヶ月間の進捗状況)

(5) 回収結果

有効回収率 82.4%(126名/153名) <前回 80.4%(平成28年7月調査)>

(6) 回答者の属性

①性別

性別	人数	割合
男性	88	69.8%
女性	38	30.2%
不明	0	0.0%

②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	40	31.7%
沿岸南部	86	68.3%
不明	0	0.0%

③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	17	13.5%
40歳台	31	24.6%
50歳台	43	34.1%
60歳以上	35	27.8%
不明	0	0.0%

④住宅被害の有無

被災有無別	人数	割合
被災あり	71	56.3%
被災なし	52	41.3%
不明	3	2.4%

⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など) 49名(38.9%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など) 34名(27.0%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業・農業従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者など) 43名(34.1%)

■参考■

○「回復度」「達成度」とは、発災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。

「進捗状況」とは、直近6ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。

○沿岸北部とは、洋野町・久慈市・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町の6市町村、

沿岸南部とは、宮古市・山田町・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市の6市町です。

※ 調査結果の集計・分析にあたっては、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。

※ 掲載する割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」「やや回復した」の合計が78.6%と前回(73.8%)を4.8ポイント上回り、「あまり回復していない」「回復していない」の合計は2.4%と前回(3.3%)を0.9ポイント下回った。

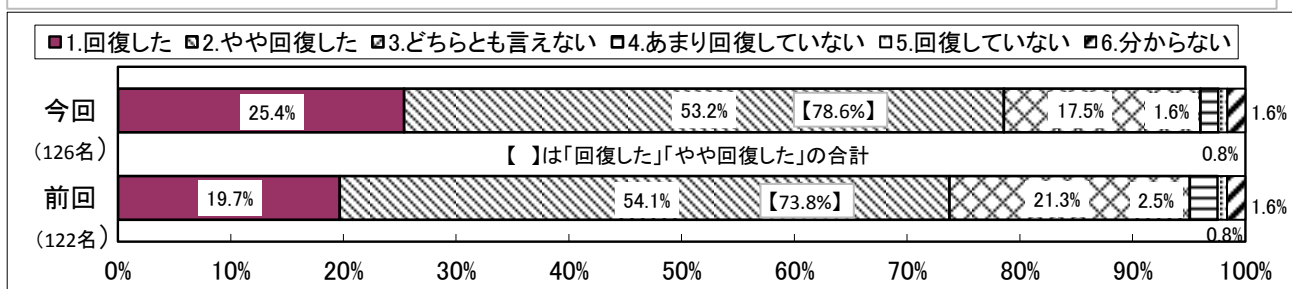
○地域別では、「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で85.0%と前回(85.0%)と同じとなり、沿岸南部では75.6%と前回(68.3%)を7.3ポイント上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は9.4%と、前回の16.7%を7.3ポイント下回った。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が75.8%と前回(68.0%)を7.8ポイント上回り、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は3.2%と前回(5.8%)を2.6ポイント下回った。

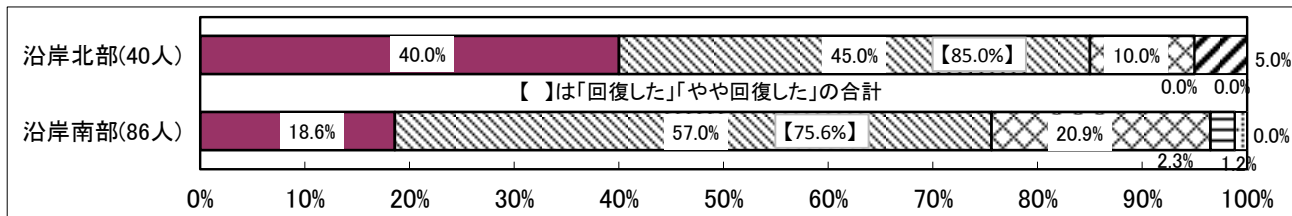
仮設住宅の撤去や災害公営住宅への移行が進んでいるとの声がある。また、コミュニティ形成の重要性を訴える声もあった。

① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

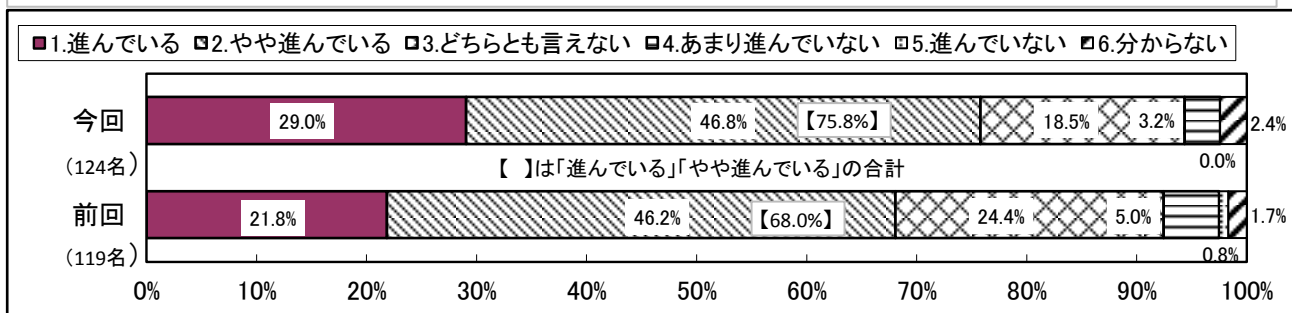


地域別

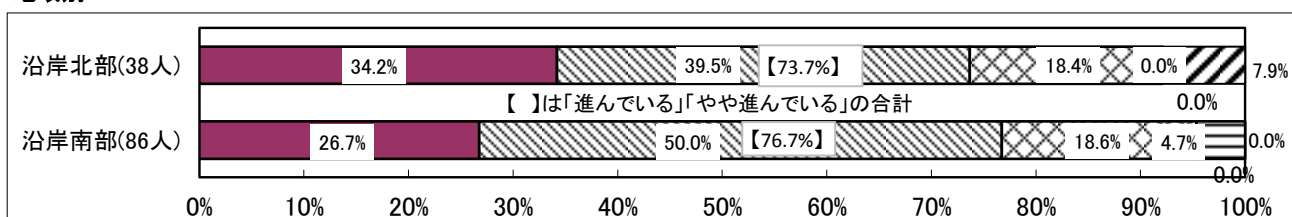


② 直近6ヶ月間(概ね7月から1月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月間程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<p>◆校庭に建っていた仮設住宅も集約や移転退去によりすべてが撤去されて、校庭が使用できるようになってきた。その反面、既存の被災した集落では、公民館の能力によって、復興が進んでいるところと、そうでないところの格差が広がってきている。(50歳台,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆仮設住宅はほとんど空部屋となってきた。災害公営住宅などへ移り、これまで「とりあえず」で、その時にあった仕事に就いていた方も、将来を見据えた仕事探しを始めている。(40歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆仮設住宅の撤去が行われた所もあり、災害公営住宅に明かりがみついているのを見ると回復していると感じる。(40歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆高台団地の災害公営住宅への入居は終了し、また、自立再建の住宅の工事もほぼ終わろうとしている。学校のグラウンドにあった仮設住宅の取り壊しが進んでいる。(50歳台,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p> <p>◆実家が完成し、仮設から引っ越しをしてようやく新しい家での生活に慣れてきた。近所の方も、家を建てたくさん引っ越し、仮設に残っている方は数えるほどになった。(39歳以下,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆ハード面的には十分回復したと思うが、まだ仮設住宅に住み、今後の方向が決められず困っている方がいるようだ。ソフト面的な支援が必要ではないか。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p> <p>◆災害公営住宅への転居が大分進んでいる。当仮設住宅でも空室が多くなった。土地のかさ上げが広範囲になってきた。飲食店が旧中心市街地に移転し始めた。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆災害公営住宅がすべて建ち、仮設住宅の撤去も進んでいる。安心して元気に生活していくために、新しい環境における地域コミュニティの形成支援がますます必要になってきた。(50歳台,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆災害公営住宅での生活も大分慣れてきた様子だ。高台団地も随分住宅建設が進んで、街らしくなってきたと思う。ただ集う場所は少ない。これからはコミュニティ作りが最大の課題と感じている。(40歳台,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆土地の区画整理が進み、高台移転も増え、景色が変わってきたのを見ると、進んできた実感できる。人口減少や若者の減少に取り組んでもらいたい。(39歳以下,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆高台の住宅地完成、それに伴う自宅再建や災害公営住宅の完成があり、以前の平和な生活を取り戻しているように思う。しかし、地区の少子高齢化が進んでおり、今後の人口減少が心配である。(特に、地域活動や消防団活動等)(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆高台への住宅再建が進み、市内で最後になる災害公営住宅も間もなく完成する予定。ただ、住宅再建について、まだ決めかねている人がおり、小学校の校庭にある仮設住宅についていつ校庭が元に戻るのかはっきりしていない。(50歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆自力再建や災害公営住宅等に入居された方が増え、生活再建に向けた条件は整った感じがする。ただし、地域の経済力がまだまだ再建途上である。若年層の他地域への流出が続いており、地元では慢性的な人材不足に陥っている。(50歳台,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p> <p>◆仮設を出て自宅再建や災害公営住宅に移った人が多数いる。慣れた仮設で見守りを受けながらギリギリで生活できている方もいるので、仮設から出して災害公営住宅に引っ越せばそれでいいというものではないとも感じる。(40歳台,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆地域の災害公営住宅に老人が固まってしまった。若い人達が計画時の希望を変えて市街地に入居した。5年も経つと人の繋がりよりも便利さを優先するようになった。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆高台に住宅を新築して住んでいる人が多いが、仮設に住んでいる人もまだいる。経済的な理由で、仮設を出られない人がいる。(40歳台,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆仮設住宅であちらこちらに空室が増えたという声を聞くようになり、道路等がまだまだ工事が進んでいないため、生活には不便さが大きく有る。(ガソリンや買い物等、遠方まで移動しなくてはならない。)(40歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p>
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆市内全域に災害公営住宅の建設、入居の動きが見られるものの、土地区画整理事業が思いのほか時間がかかっており、まだまだ先の見通しや町の復興のイメージが具体的に見えてこない。そのため、自力再建についてもローンの長期支払い等において不安もある。(50歳台,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>

注1 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」「やや回復した」の合計が53.6%と前回(57.0%)と前回を3.4ポイント下回り、「あまり回復していない」「回復していない」の合計は7.2%と前回(5.0%)を2.2ポイント上回った。

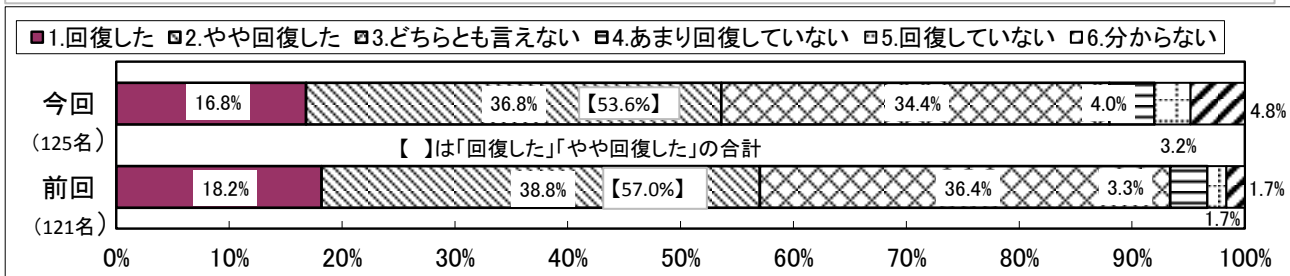
○地域別では、「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で65.0%と前回(70.7%)を5.7ポイント下回り、沿岸南部では48.2%と前回(50.1%)を1.9ポイント下回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は16.8%と、前回の20.6%を3.8ポイント下回った。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んだ」「やや進んだ」の合計が47.2%と前回(51.3%)を4.1ポイント下回り、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は8.0%と前回(8.3%)を0.3ポイント下回った。

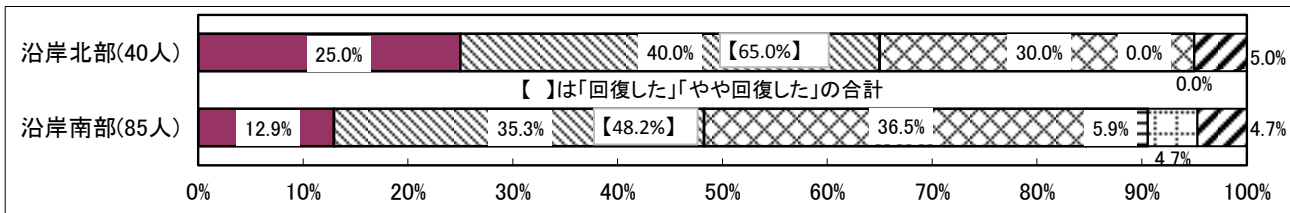
経済が徐々に回復しているという声がある一方で、台風第10号被害や不漁による経済への影響を心配する声もある。

① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

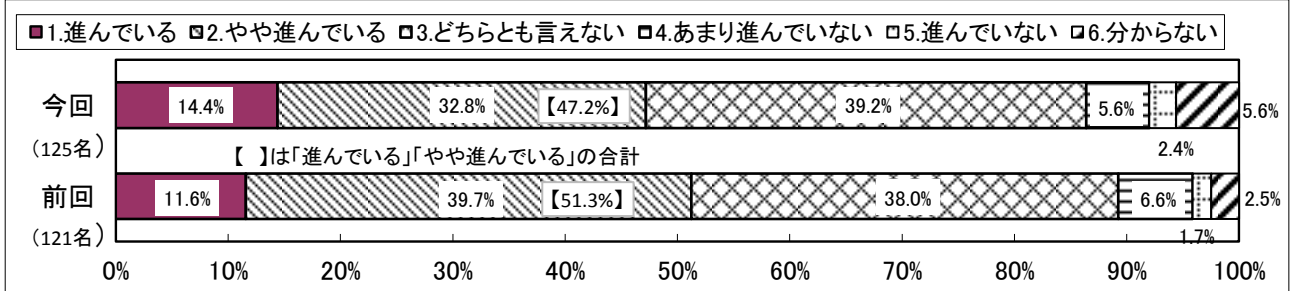


地域別

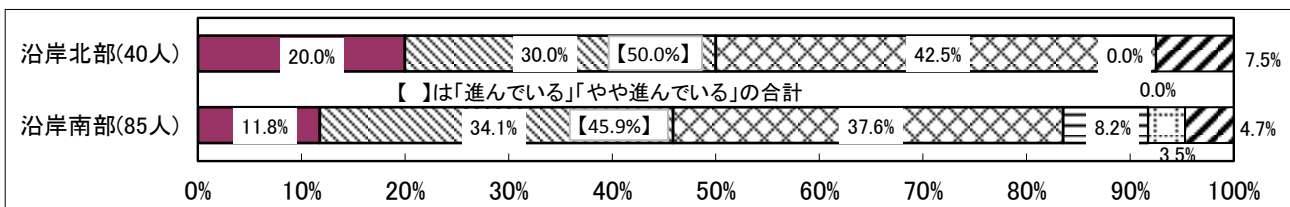


② 直近6ヶ月間(概ね7月から1月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆全ての業種で回復しているように思う。ただ、復興景気が終わって、後がどうなるのか懸念される。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆漁業・農業・建設業及び関連業種が回復し、経済の活性化を感じる。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆水産業は回復していると思う。年一回のホタテ祭りは、とても盛況でたくさんのお客様でいっぱいだった。農業も作物が以前のように作られていると思う。(50歳台,教育・福祉施設関連,沿岸北部)
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆震災の影響から回復してこれからという時に、台風10号により、また震災前と同じになった設備がある。支援が必要ではないか？(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部) ◆水産業の方々は元通りの営業に戻ったかに思われたが、この8月の沿岸地方を襲った台風でまた甚大な被害を受けた。大きな震災をくぐり抜けてきた強靱な精神力で立ち直り、今一所懸命に毎日の仕事をこなしている。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆多くの方々の応援もあり、養殖業もだんだん安定してきた。これからも品質向上を目指し、恩返しをするつもりで頑張っていきたいと思っている。(40歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸北部) ◆支援や補助により生産体制は整ってきたが、自立に向けた生産についてはこれからだと思う。異常な天候によるものなのか、復興工事の影響なのか、生産物によっては状況が不安定である。(50歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸南部) ◆水産業では、サケ・イカがあまり獲れていないとも聞くので、業種によって回復の差が出てきているのではないかと考えている。(40歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸南部) ◆施設等の復旧は進んでいるが、事業者や後継者不足が問題である。三陸道路も工事が進み、遠方との経済面での交流が期待できる。(40歳台,教育・福祉施設関連,沿岸北部)
「3.どちらとも言えない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆震災での農林水産業の再建はほぼ完了していたが、今年の台風10号により震災以上に農地が被害を受けた。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部) ◆被災した事業所の内、本設再建を果たしたところ、再建中のところ、休業中のみ廃業に至ったところがようやく明らかになってきている。後継者難など震災前からの課題の解決が図られないまま休業や廃業に至った事業所も多い。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆やっと整備できた養殖施設も8月の台風10号で被害を受け、復旧に対する補助事業も予算が付かず、頓挫してしまっている状態だ。ここへ来て力尽きてしまうのではないかと不安だ。(50歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸北部) ◆農漁業においては、後継者不足があり、水産加工において深刻な人手不足がある。従来からの低賃金も影響しているように思う。介護施設の給与補助と同様、水産加工においても施設(手当)が必要だと思う。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部) ◆いわゆる「復興需要」の落ち着きが見られ、多くの業種で客数減、売上減の状況が見られる。また、復興遅延の影響等で、沿岸部の人口減が見られ、地域経済に影響をもたらしていると考えられる。(50歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸南部) ◆復興関連業種は業容拡大・体質強化している。製造業は工場再建後、地道に業績を伸ばしている。しかし地元水産加工業は不漁や従業員確保難から低迷。飲食業の本設再建が少ない。(50歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸南部) ◆人口の流出は大きい。地域経済は以前のような回復は難しいように見える。(50歳台,教育・福祉施設関連,沿岸南部)
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆かさ上げした土地で、現在複合施設の建設は着工したが、経済的なものとしてはあまり進んでいる感じはしない。(50歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりの達成度については、「達成した」「やや達成した」の合計が45.9%と前回（42.2%）を3.7ポイント上回り、「あまり達成していない」「達成していない」の合計は15.5%と前回（20.7%）を5.2ポイント下回った。

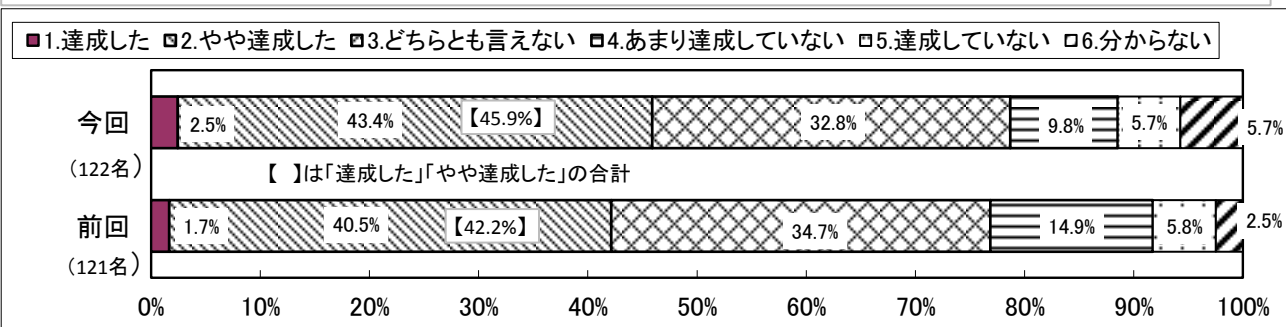
○地域別に見ると、「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で60.0%と前回（63.4%）を3.4ポイント下回り、沿岸南部では39.0%と前回（31.3%）を7.7ポイント上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は21.0%と、前回の32.1%を11.1ポイント下回った。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が55.3%と前回（57.0%）を1.7ポイント下回り、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は13.9%と前回（18.2%）を4.3ポイント下回った。

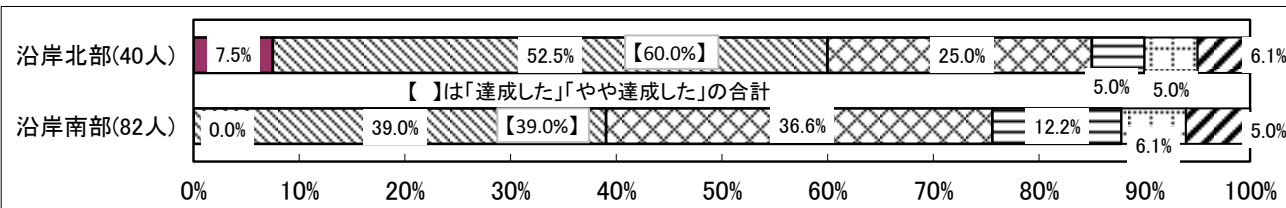
防潮堤、宅地整備、復興道路の整備が着実に進んでいるとの声がある。また、避難訓練等防災意識の重要性や多岐に渡る災害への対処を望む声もあった。

① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

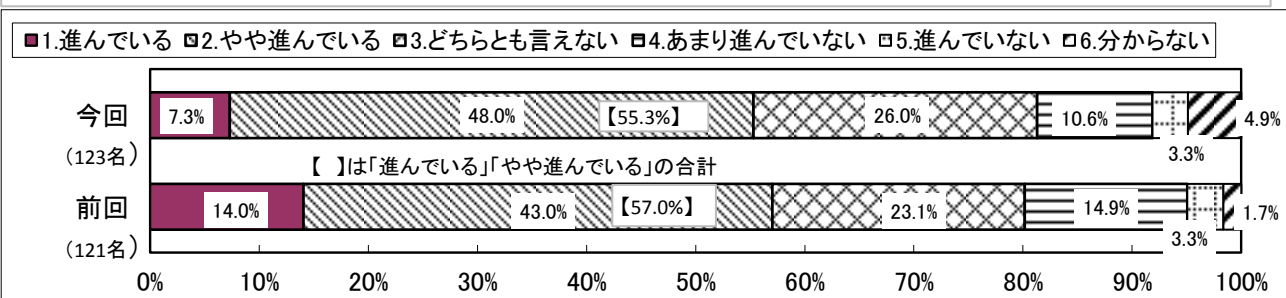


地域別

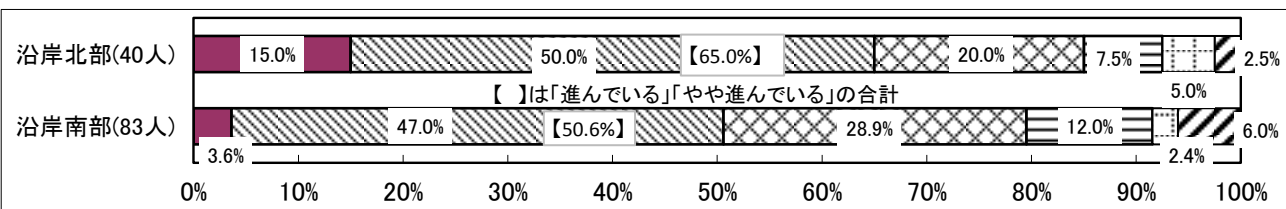


② 直近6ヶ月間(概ね7月から1月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)災害に強い安全なまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.達成した」 又は 「1.進んでいる」 の理由	◆河川堤防のかさ上げのおかげで、水害による浸水がなかった。(50歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)
「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由	◆防潮堤の工事は進んでいると思う。今までの防潮堤工事と違い、スケールが大きいので、なかなか進んでいないように見えると思う。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆避難場所など多くみられるし、そこへの道路も整備されている。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆道路建設も進んで、防潮堤建設も進み、随分様子も変わった。ただ、人々の防災に対する意識を、今一度しっかり持つ機会も一年に一度など必要な気がする。(40歳台,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆目の前の防潮堤によって、普段走る県道から海が見えなくなっている。計画されている中間道ができれば、その道からは見えることになる。避難訓練への参加もなされていて、防災意識も高まっている。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部) ◆ハードは進んでいると見えるが、年数が経過し、ソフト面で災害を忘れているように思う。また、地域の防災意識が薄れていっているように思う。地震があっても避難しない人が多くなった。(50歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸南部) ◆地震、津波に対する整備・方策は順調に進んでいると思う。更に昨年8月の台風被害では、この地区は震災以上の被害を受けた。今後、不測の事態がいつ、いかなる時に起きたとしても、人的被害がないように、整備面だけでなく心の準備が必要だと感じる。(50歳台,教育・福祉施設関連,沿岸北部) ◆三陸沿岸道路の工事の進み具合を目で感じる。開通した道路などを見ていると、今後のまちづくりへの期待が大きくなる。また防潮堤の建設や土地のかさ上げ工事も着々と進んでいると思う。(50歳台,教育・福祉施設関連,沿岸南部) ◆港湾の修復や防潮堤の整備、盛土など宅地の整備、復興道路をはじめ道路の完成が目立ってきた。浸水区域を見ると不安を感じる部分もあるが、避難訓練なども充実していくことを願っている。(39歳以下,教育・福祉施設関連,沿岸南部)
「3.どちらとも言えない」 の理由	◆避難訓練は行われているが、休日等自宅にいる場合にのみ可能な避難だと思う。仕事や外出時など企業への働きかけも重要だと思う。(39歳以下,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆台風10号により、新たな課題が見えたと感じる。沿岸のみならず山間部から見直しが必要ではないかと思う。(40歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸北部) ◆災害は津波だけではない。水害は津波で被災した地域とは違うところで起きた。あらゆる災害を想定し、何が起きても対処する事こそ大事。防潮堤や河川整備と同時に地域住民が防災意識を高め、維持し続けられるよう情報発信する。このソフト面がまだまだ足りないと思う。(50歳台,教育・福祉施設関連,沿岸北部) ◆防潮堤の嵩上げ工事や道路工事は順調に進んでいる。一方で、今年8月末の台風10号により市中心地が甚大な被害を被った状況を見れば、地域の防災対策はこれからの感じがする。今回の水害は住民の災害に対する意識変化が顕著に表れた事例と思う。(50歳台,教育・福祉施設関連,沿岸北部) ◆道路の整備は進んでいる。しかし、防潮堤については、工事はまだこれからの段階である。(50歳台,教育・福祉施設関連,沿岸南部)
「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	◆28年度に入り、第一線堤が着工し、目に見える形で進み始めた。また、水門工事も進行中。しかし防潮堤の一部で強度に不安を感じる。低地から高台に避難するルートの確保が十分とは言えない。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆工事の進み具合は、地域によってバラバラだと感じる。ハード面の整備も大事だが、防災への意識や、高台への避難がスムーズに行える取組みがもっと必要だと思う。(50歳台,教育・福祉施設関連,沿岸南部)
「5.達成していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	◆防潮堤の工事が一番遅れているように感じる。早い地区は進んでいるが、全体的にみるとまだまだである。(50歳台,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など

教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など

産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

いわて復興ウォッチャー・動向判断指数(DI)の推移

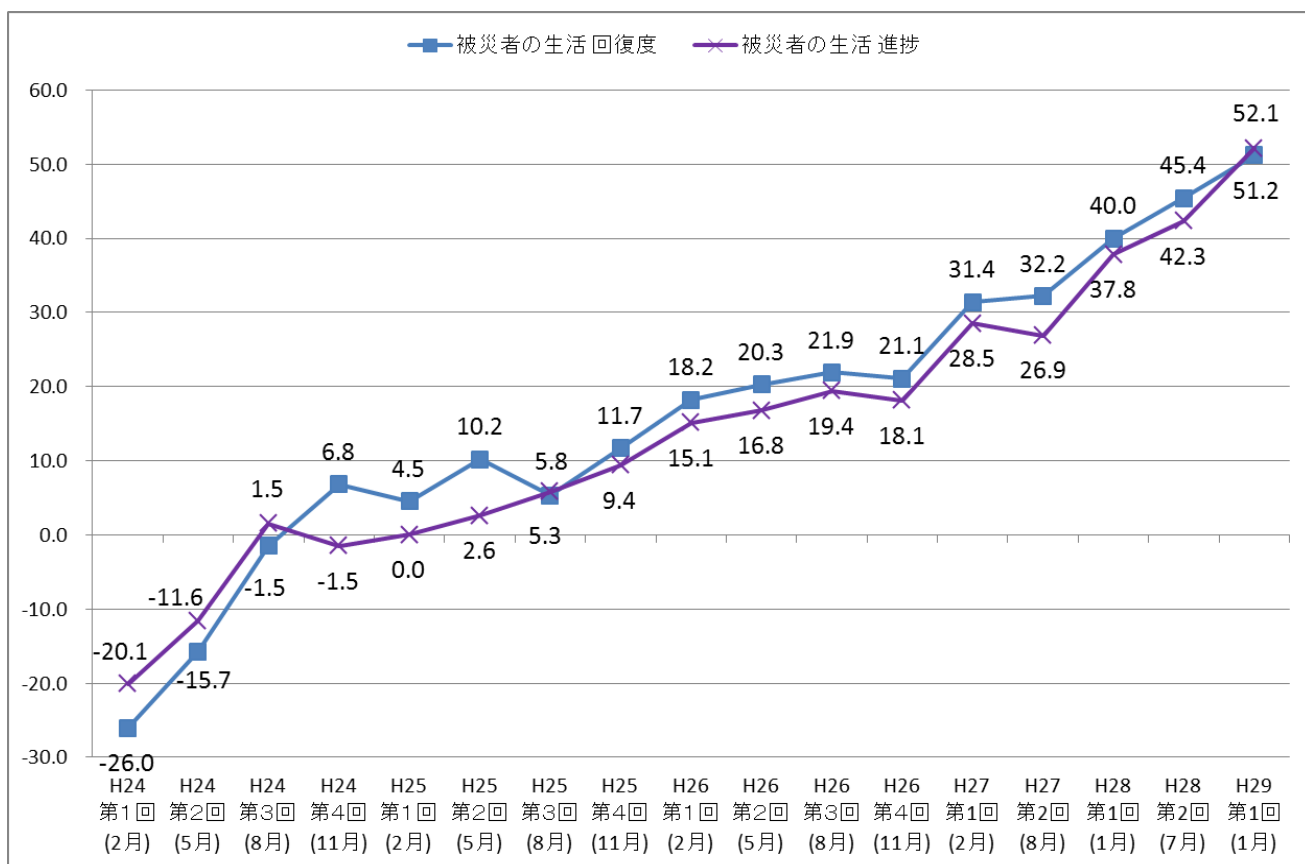
<動向判断指数(DI)>

掲載する折れ線グラフは、各回の動向判断指数(DI)について時系列にその推移を表わしたものである。動向判断指数(DI)は、「回復した」の回答数がA、「やや回復した」の回答数がB、以下「どちらともいえない」がC、「あまり回復していない」がD、「回復していない」がEのとき、次の式で算出する。

$$\text{動向判断指数(DI)} = \{ (A \times 2 + B) - (D + E \times 2) \} \div 2 \div (A + B + C + D + E) \times 100$$

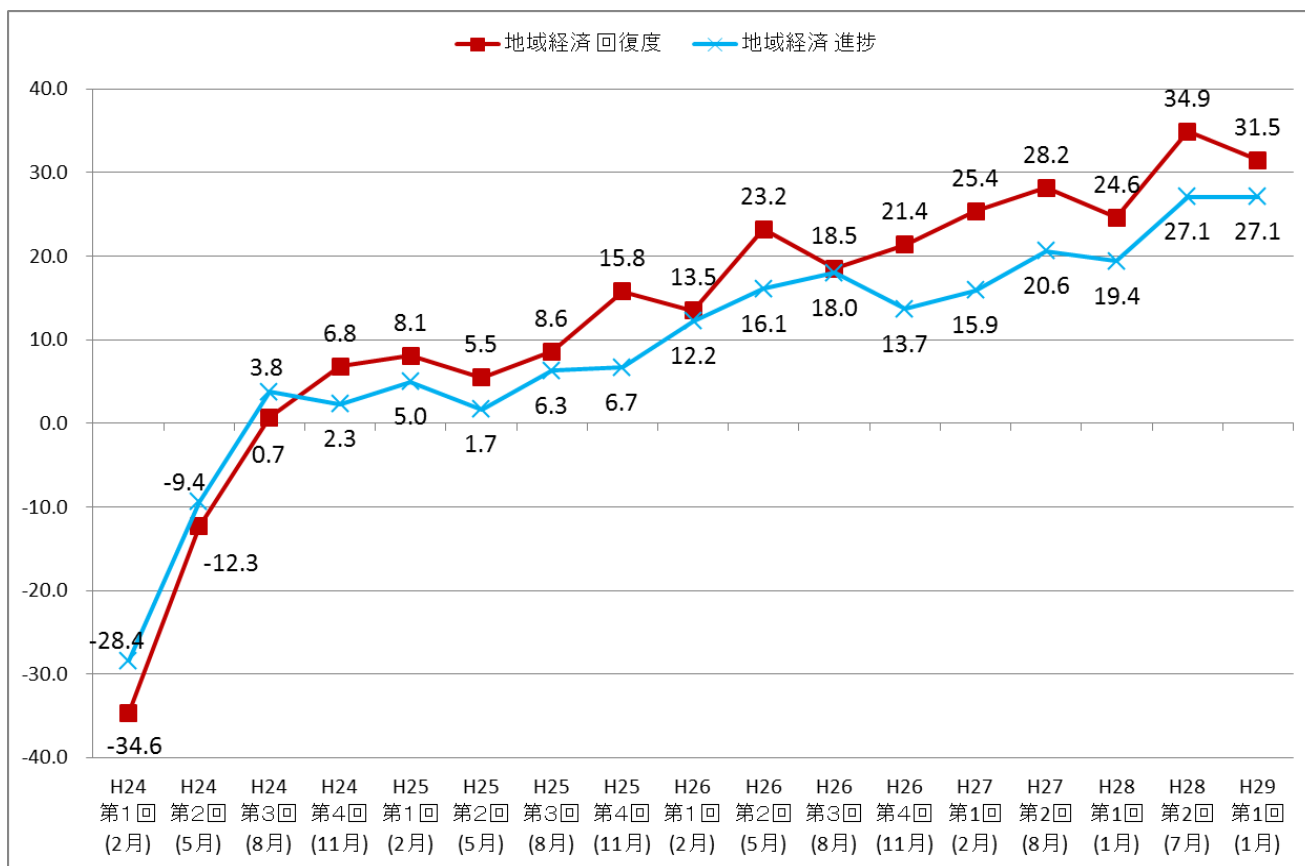
(注) 上記「回復した」は、設問によって「達成した」「進んでいる」等となる(他の選択肢についても同様)。

【被災者の生活】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



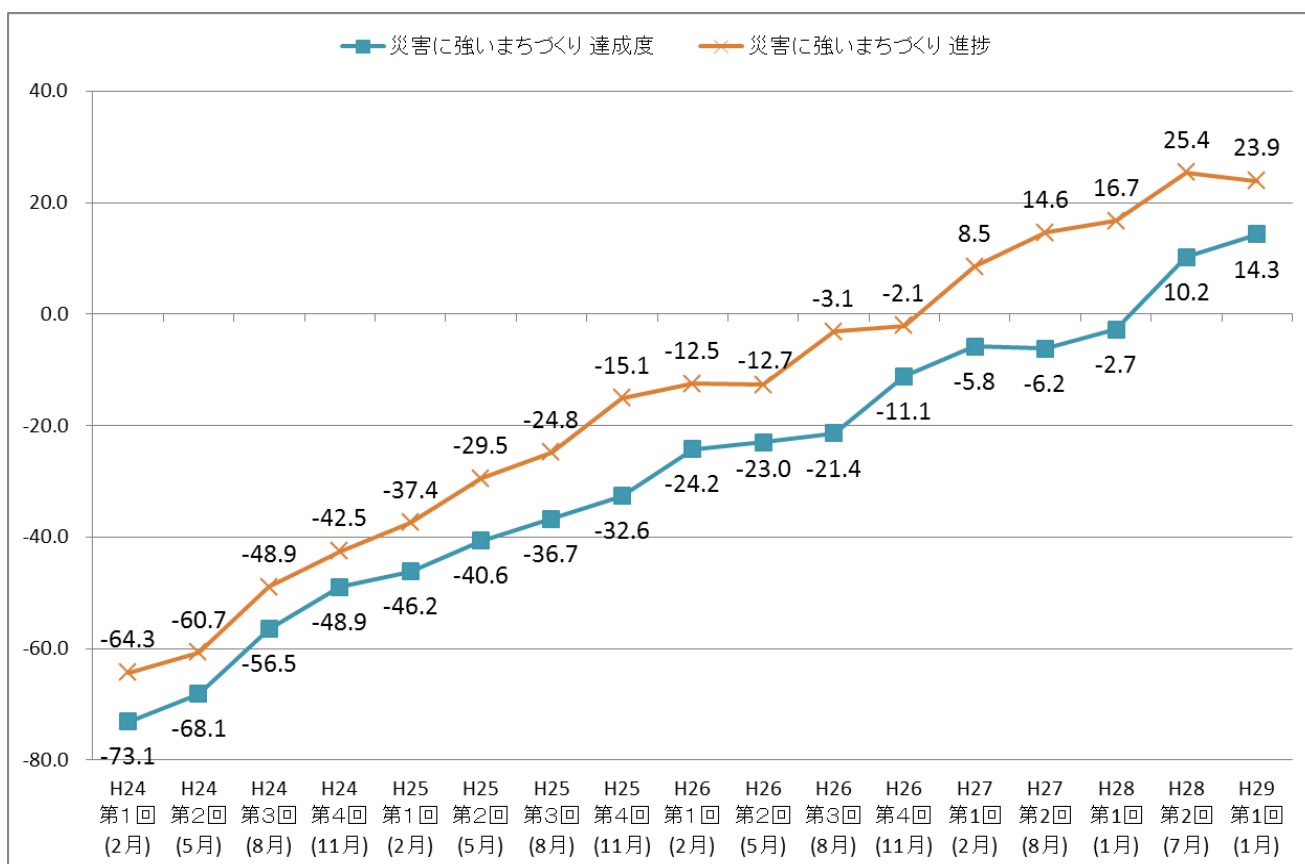
※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、概ねH28年7月～H29年1月)を指す。

【地域経済】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、概ねH28年7月～H29年1月)を指す。

【災害に強い安全なまちづくり】達成度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、概ねH28年7月～H29年1月)を指す。

平成29年【第1回】
「いわて復興ウォッチャー調査」
結果報告

発行

平成29年2月28日

岩手県

復興局 復興推進課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話(019)-629-6945

ホームページ：岩手県震災復興・復興の動き

<http://www.pref.iwate.jp/fukkounougoki/>